

郷土を愛する人々の雑誌

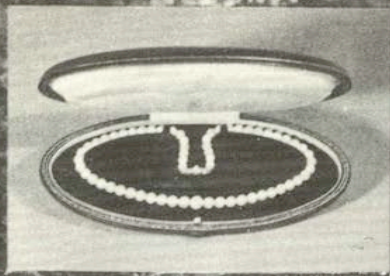
神戸っ子

1962 1周年記念号



Masaru
Nakanishi 62

MONTHLY MAGAZINE KOBEEKO MARCH 1962 NO. 13



100粒の中から5ツ
100粒の真珠の中から
平均して5ツ ミキモト
の名にふさわしいツブよ
りの輝きは こうして選
ばれるのです。



御 木 本 真 珠 店

神戸店

神戸国際会館 TEL 22-0062

大阪店

新大阪ビルデング TEL 361-0220

本店 - 東京銀座四丁目



これは神戸を愛する人々の手帖です

あなたのくらしに楽しい夢をおくる

神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ

これは神戸っ子の心の手帖です



神戸と女性

上野純子さん
(スケート選手)





**女性による (第4回)
ヒルマン・エコ・ラン**

東京大阪間を最少の燃料で走る競争
実施／5月5・6日 申込期日 4月10日



応募規定／参加ご希望の方は下記
へお問い合わせ下さい

兵庫いすゞモーター
神戸市雲井通4／TEL (22) 4751



目 次

神戸と女性／カメラ・杉尾友士郎	1	24 結婚特集
ずいそう／村という町・小松清	4	25 ウェディングドレス・福富芳美
ずいそう／冬よさようなら・上野純子	9	28 愛の日の装いに
神戸っ子放談／神戸を見直そう・牛尾吉朗	10	31 座談会／神戸ときもの ゲストに岡部伊都子さんを迎えて
連載①問わず語り		34 びんくこーなー (T)
播州人・司馬遼太郎	12	39 ずいそう／二題 青木重雄・鴨居玲
神戸を語る・山崎国雄	14	45 BONSOIR MADAME
私の好きなスター・星空ひかる	17	46 ショート・ショート① かたきうち・陳舜臣
神戸だからえがく夢・藤本義一	18	
神戸を創るトップグループ劇団道化座	20	
花時計・レリーフ／松井高男・和田	22	

表紙・中西勝／写真・杉尾友士郎・米田定蔵／デザイン・橘昭三

ずいそう

村という町

小松 清



私は兵庫の算所（さんしやう）町に生れた。日露戦争前のことである。神戸駅から兵庫駅に行く鉄道線路のすぐ南側に私の生れた家があった。生家は米屋だった。線路に沿って両側に八からたちVの生け垣がうわっていた。私の家から佐比江町え南一、二丁は庶民的繁華街だった。明治座という古い芝居小屋（劇場）があり、八百屋、魚屋、肉屋、おそう菜屋、居酒屋がぎっしり軒をならべていた今のマーケットそのままの喧騒さだった。そのころの兵庫では、柳原とならんで屈指のさかり場だった。

人々は算所町と呼ばなかった。それは謂わば表向の名で、通称「村（むら）」と呼ばれていた。古い文献をみると、昔から「村」と呼ばれてきたらしいが、おそらく兵庫の港町の外れにできた新開地だったのではなからうか。新開地といえば、時代的には、「村」よりずっと後にできた湊川新開地は「村」から僅か二、三町のへだたりしかへだたっていなかった。いまでこそ、新開地は神戸の八浅草Vであるが―昔にくらべると大分さびれはてはしたが―私の幼少のころは名のしめすように湊川の河原の面影が到るところに残っていた湊川河原の埋立工事はじまったのは明治三十五年（一九〇二）、

私はまだ物心がついてない二つ、三つの幼児であった。

現在（いま）聚楽館のあるあたりは新橋と呼ばれていて、湊川がまっすぐ南に向けて海に流れこんでいた時分は橋がかかっていたのだろう。ひどく淋しい場所、夜になると狸がでて、通行人をたぶらかすと語り伝えられていた。私も祖父の膝の上で噺々そんな話をきかされて、おぼえたことを憶えている。じじつ、あのころ狸の類が棲んでいたのは事実らしい。

算所町は、一日中人ごみでごたごたした盛り場だったので、私たち小供の遊び場はしぜん広い河原のある湊川新開地ということになった。何人か仲間とつれだって、そこまで出かけて行つた。私はまだ小学校にかよってない年ごろだった。私の家から眼と鼻のところにある永沢町の線路の踏切りをとおり、兵庫小学校（私の母校。現在も残っている）にまで出るのが二、三分、そこから東え二、三丁も歩くと湊川の河原だった。途中、弁天の社（やしろ）があり、すぐ隣りに石阪製粉所（詩人竹中郁の生家）があった。湊川寄りには南画家水越松南の家があった。私の記憶では湊川新開地はその創世紀にあった。もちろん聚楽館は建ってなかったが、相生町から移ってきたので、その名をとどめている相生座があった。その正面には電気館、日本館という映画館があった。みな河原のあとに建つたものである。私が活動写真（映画の旧名）をはじめて見たのはこの常設館においてである。日本館だったと憶えているが、そこで四谷怪談をみたが、文字どおりのスリラーだった。その夜は恐怖のあまりおちおち眠れなかった。

新開地の堤防の跡は通称「どて」とよばれていた。「どて」には老松がたちならんでいた。風があると松並木の枝葉が鳴った。少年の私の耳には、ここで倒れた正成の将兵（つはもの）たちのあげる咽び声のようにきこえた。神戸では「なんこうさん」と尊崇と愛情をこめた言葉をもってよばれている湊川神社は、旧湊川から東え数丁のところにあった。神戸駅のすぐ北にあり、国道に面しているこの神社の境内は広々していた。楠氏の旗印であった菊水の紋どころのついた瓦で葺いた神垣（かき）をめぐらしていた。大きな楠（くすの



き)の古木が神垣(かき)ごしにみられた。正門をくぐって右におれると「嗚呼忠臣楠氏之墓」と碑にきざまれた墓がある。水戸光圀(黄門)の建てたものである。湊川神社のすぐ裏手に小高い丘になっている大倉山があるが、山腹に広厳寺という寺がある。湊川で敗れた正成が最後まで生残った一族十六人とともにこの寺でいさぎよく切腹して果てたと伝えられている。

私は、毎日のように湊川の河原に遊びに行ったが、神社には、お祭のあるときでもなければ、めったに行くことはなかった。河原を越えようと、他国に足をふみ入れるような感があった。それだけでなく、私は小供のころから神社やお寺の雰囲気には何となく反感さえおぼえた。自由奔放な童心には、窮くつて抑えつけられるような気がしてならなかった。私は英雄楠正成獅子奮迅の血戦ぶりを硬苦しい神社の建物のなかで想像するよりも、湊川河原のながめのなかで松籟をききながら私なりに空想をたくましくするのが好きだった。手兵僅か七百騎をもって、尊氏三万の大軍を迎えて討つ楠勢の奮戦の図を、少年雑誌の挿絵や絵草紙をとおして好んで胸にえがくのだった。

少年期における正成崇拜は、私の精神形成の上では宿命的な影響をもったと私は泌々と考える。天皇への誠忠といった意味においては、衆寡敵せず、そのことの理を百も承知しながら、しかも一握りの兵をもつて雲霞(うんか)の大軍に立ちふさがったというその感動が幼いころの戦の心をしっかりと覚えてしまったのである。私は今日なお人生ぎりぎりの場においては、少数者のモラルを信じて生きている。

(仏文学者)

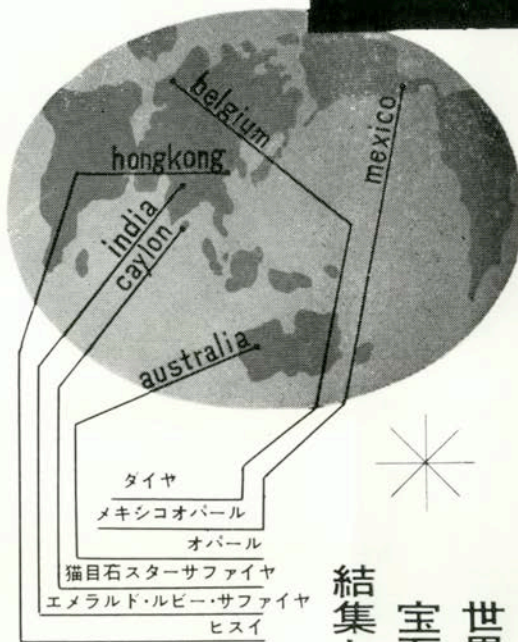
え・松 本 宏

マロングラッセは ヒロタの銘菓

世界中の人からほめられた
日本の誇り 神戸のほまれ

元町通三丁目 TEL ③二三四〇番

DIAMOND



世界の
宝石を
結集した

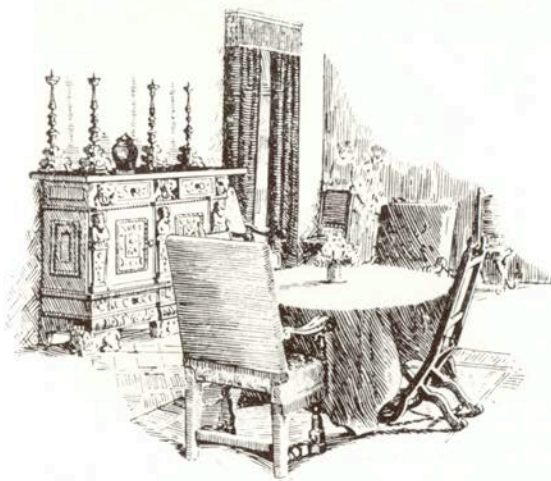
宝石輸入商・宝飾店

タジマ

神戸・元町2丁目


TEL ③ 0387・2552

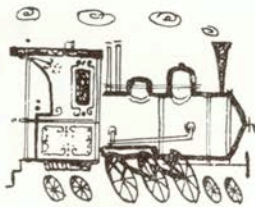
家具・室内装飾・工芸品




永田良介商店

大丸前 TEL { ③ 5 5 2 0
③ 1 2 9 0





PELO



MADE IN WEST GERMANY

ネクタイの
元町バザー

元町 1 ③ 1 4 0

冬よ

さようなら

上野 純子

あたたかい春の訪れとともに、心なしか目にうつる緑の色がなんだか生き生きしてきたようです。

「冬きたりなば、春遠からじ」——、スラックスに皮コート、そして私の好きな赤とグリーンの格子ジマのマフラーをつけ、冷めた六甲おろしにふるえながら、大阪や神戸のスケート・リンクに通っていた私も、大好きな「冬」とお別れです。スケートを始めてまる九年になる私にとって「冬」はわが愛する季節といえるでしょう。誰れもない早朝のスケート場で大好きなスクールやジャンプの練習をするのが私の冬の日課だった。毎日のトレーニングは厳しいけれど、氷の上で滑っているときに、私にはいちばん「幸福」な瞬間だ。かつてスイスやヨーロッパ各地のスケート・リンクで世界各国より拔きの選手たちと技をきそったときの興奮がよび起こされることもある。スケート靴をはき、氷上におりたつたときのあの得も知れぬ「緊張感」、滑っている間は、もう無我夢中といった感じはいつまでたつてもかわらない。そして滑べり終ったあとのこのころよさ、はげしい練習のあとに湧いて出る汗とともに気持ちいい。

どんなに寒い冬でも練習したあとは、ボカボカとまるで春のあたかさを感じさせてくれる。冷めたくホホに吹きつけるのがらしも練習後の私にはこちよい。だから人の嫌う冷めたい「冬」が大好きだ。

第一、氷とは切っても切れないスケートにあけくれしている私なんだもの……。

でもそんなに好きな「冬」ともさようなら。いつの間にか春風がそよぐ季節がやってきたのです。これからはスケート靴をはく回数もいくらか減るでしょうが、来年の「冬」は、東京オリンピック目ざして再びはげしい練習を始めます。それだけにきつと待ちどおしい気持ちで「冬」をむかえることでしよう。

(スケート選手・関学大)

神戸を見直そう

牛尾吉朗



(写真は郷土のために頑張ると語る牛尾社長)

生田川の市電通りを南へ行ったところに「興進ビル」があり、四階は牛尾工業の新社屋である。社長の牛尾吉朗氏は36才、全く鋭気颯爽として、青年実業家と呼ばれるにふさわしい人柄である。

新しい神戸の担い手達として目覚ましい活躍を続けている神戸青年会議所の代表者。

「神戸を見直そう」と熱心に話をされるところなど、イキのいい神戸っ子だと期待せずにはいられない、話も明るく楽しい――

神戸を明かるく

神戸は港都としては世界的だし、美しいですね。香港に似ていると云う人も多いようだけれども、北欧の København の感じだな、ナポリにも似ているよ。いづれにしても世界の都市に決して負けませんよ。

だから神戸商工会議所・県・市を中心に「町を明かるくする運動」には大賛成です、これで神戸の夜が明かるくなれば一段と美しくなりますよ、欧州では自動車のヘッド・ライトをつけなくて夜の町を走るんですから、町は明かるいほどういことなんです。

慾をいえば、神戸にアカデミカルな雰囲気があると思うのは私だけではないと思うんです、当然これからの神戸の課題だとは誰しも考えてはいるんでしょうが、文化の中心点である区域とか、何か心のよりどころになるようなもの、それが交響楽団であつても、

プロ球団でもいい、神戸の体匂のエネルギーとなるようなものがあれば町に活気が溢れて来ます。

神戸は国際色豊かな町だというのは事実なんですけれどもだけに根強さというものが言われるんですよ、いわゆる城下町的な愚直さというものは性格的に持ち合せていないんで、無理もないと云われればそれまで、私どもにとっては、そんな神戸を見直して行きたいという気持ちです。

神戸の狭隘さを乗り越えよう

青年会議所というのは、世界的な会合で年中行事に国際会議もあるんです、範囲は若手小社経済人の集いで定年は40才なんです。

日本青年会議所は現在約一万人の会員を擁していて、それぞれの地域で活発に動いています、神戸青年会議所は一四〇人です。

毎月定例で、六甲山ホテルでセミナーを開いたり、社会奉仕をしたりでいわば若手経済人のトレーニング（自己修練）の集いとして神戸を中心に経済、社会両面で、新しい神戸の中心となるエリートとして成長して行くように頑張りたいと思います。

幸い神戸の青年会議所は活気に満ち、一番発言しやすい会合になっていますね。

だから、出来るだけ他都市とも交流をもって、神戸の代表選手としてはつかしなくないようにやってゆこうと張切ってるんです。

神戸は国際性があるといわれているんですが、いわゆる地方都市的な狭隘さというのが顔を出して来て壁を作るようになる、これを乗り越えることが先決だと思ひますよ。

かつて阪本知事が「神戸には財界がない」と云われたんですが、私たちにしてみれば、神戸になぜ財界がないかということを考えてほしいと思いますよ。

神戸では経営者の会合でも非常に円満で、家庭的な雰囲気があるんです。

東京・大阪ではこの点非常に厳しさというより激しさがあつて、魅力があるんです。そのかわり排他的なところはなないし、ビジネスははかどるということなんだ。

私たち若い経済人もいま一度、じっくりと神戸を見直して、東京、大阪のよさをとり入れて、神戸の若さというものを創造して行きたいと思ひつてゐるんです。

もっと大らかな気持ちで、郷土をいっそう豊かにするために、若い人を育てていただきたいと思ひます。

ただ神戸に住みよい町であるということだけでなく伸びる神戸として、ビジネスが出来るようにするよう努力して行きたいですよ、ビジネス街も現在の海岸通り附近はもちろん、イースト・キャンプ跡からもっと東まで

がビジネスの中心地にならなくてはいいなと思ひつてゐるんです。

現在、イースト・キャンプ跡が停滞しているのも早急に神戸のためにどんどん解決して、新しい神戸の拠点にあの辺がならねば嘘ですよ。私も若いんですからいまのうちに、後になって悔を残さないように郷土のために頑張ります。

―牛尾工業株式会社社長―神戸青年会議所代表者

（文責・小泉康夫）